

【Y県危機管理課】惨事後Mのデザイン

同僚である危機管理課職員の惨事後ミーティング

対象者： B課長、C, F 専門官、D, G 係長、E, H, I 係員

裏の目的：・ Aさんへの思いを表現できる場の提供（現在、話題にすることを遠慮している
雰囲気がある）

- ・ これまでの経緯、状況を B 課長から話してもらい、何があったのか、どんな状況だったのか、情報を共有することで、疑心暗鬼を解消。
- ・ C 専門官から能登派遣中の状況を話してもらい、何があったのか、どんな状況だったのか、情報を共有することで、疑心暗鬼を解消。
- ・ 現状考えられる A さんの自殺までのいきさつの説明
- ・ 県庁の今後の方針、公務災害についての対応など、現在知り得ている情報を伝えてもらい、会社への不信感を弱める。
- ・ 同じ場でそれぞれの体験を話す場の提供（誤解を解き、人間関係の回復を図る）
- ・ メンバーそれぞれの A さんへの思いを話す場の提供
- ・ 出来事後の症状と対処法を説明する
- ・ A さんのストーリー説明の情報収集。出来ればその場でストーリーを作り、提示する。

表の目標：身近な人を亡くしたショックに対する心のケアと対処について話し合う

<会議名> Aさんが亡くなられた経緯と危機管理課の今後について

<議題> ①オープニング

②B 課長からの説明（これまでに知り得た状況など）

③A さんについて（メンバーに知っている事を話してもらう）

④症状と対処法の説明（ファシリテーターから）

⑤今後の危機管理課の業務管理と体制（B 課長から）

⑥組織への要望について

⑦クロージング

<根回し> B 課長に対して

A との面談を通じて知り得た内容を出来る範囲で話してもらう。

研修所で起きた出来事について、課長へは情報共有がなされているので、知り得た情報を話してもらう。

また、今後の人員の補充などについても説明してもらう。

<注意点> ・ 課内のコミュニケーションが低下し、誤解が生じている可能性もあることから、個人攻撃が起きる可能性があることに留意

・ 心理的負担の大きい職場であることから、不平不満が表出される可能性あり